



### Exhibition\_雪舞い / Snow dance\_ミシェル・ウノー / Michel Huneault

現実であれ想像であれ、とらえどころのない冬をどのようにとらえ、どのように私たちの知覚を揺さぶり、感覚的な記憶を呼び起こすのか。この展覧会では、さっぽろ天神山アートスタジオでの滞在中に、アーティストが使用した写真、ビデオ、体積記録、文章など、さまざまなメディアやドキュメントを、更新し続ける実験室のように展示。市民から応募してもらった「札幌のあなたの冬の思い出」の体験談も、作品として展示された。

会期：2024年4月5日（金）6日（土）7日（日）、12日（金）13日（土）14日（日）

11:00-19:00 \*会期中の金曜日を含む週末のみの開催。

会場：天神山アートスタジオ 1階 展示スペース

入場・参加無料

来場者数：1,245名

オープニングイベント4月5日（金） 18:00~ アーティストトーク

来場者数：10人

アーティストについて：ミシェル・ウノー / Michel Huneault

ミシェル・ウノーは、ドキュメンタリー写真とビジュアルアートを組み合わせて活動しています。個人的かつ共同的なアプローチにこだわり、静止画、オーラルヒストリー、没入型要素を作品に組み込むことがよくあります。

アーティスト・ステイトメント

初めて北海道に降り立ったとき、私はカナダでの早春を思わせる感覚に包まれた。明るい光、爽やかな風、そして真っ白な雪の匂いが、私を青春時代に引き戻した。祖母が所有する土地にある白く覆われた森を、観察したい動物たちを怖がらせないように静かに歩きながら、父について行ったことを思い出した。持参したハムサンドを焼くために始めた小さなたき火の熱と、ポロポロの魔法瓶から紅茶を分けてくれた父の姿とのコントラストを、私は今でも感じることができる。

一瞬にしてノスタルジーと明るさに包まれるこのような瞬間、私自身の記憶と感情はもつれ合い、フィクションや美術史、冬にまつわる神話と自由に混ざり合い、ワルツを踊る。そうならないわけがない。

「雪舞い / Snow dance」では、私が札幌の冬に感じた相互作用をリサーチし、ドキュメンタリー的でありながら叙情的、実験的、さらには遊び心に満ちた冬らしさのカプセルを組み立て、考察し、交流し、未来へと伝えていく。

それぞれの冬の物語を携えて、私は観客に作品を体験してもらい、観客の存在と解釈によってインスタレーションを完成させる。自分に備わっているだろう危機感を引き出しながら温暖化する地球を前にして、このプロジェクトを別の場所でも引き続き実行していく。

このさっぽろ天神山アートスタジオでの時間と作品を支援してくれたカナダアートカウンシルに心から感謝の意を表します。



### 水曜シェアリング アーティストトーク

### CAPSULE406 (Frédéric Lacroix-Loiselle) /カプセル406 (フレデリック・ラクロイゼル)

映像・アニメーションを制作している CAPSULE406 が、これまでの活動紹介を行いました。

会期：2024年4月10日（水）19：00～20:00

11:00-19:00 \*会期中の金曜日を含む週末のみの開催。

会場：天神山アートスタジオ 1階 展示スペース

入場・参加無料

来場者数：6名



## Exhibition\_無流無書道 NO STREAM NO SHODO

Katja Lee Eliad カティア・リー・エリアド

会期：2024年5月1日(水) -8日(水) 9:00-21:00

会場：天神山アートスタジオ 1階 展示スペース

入場・参加無料

来場者数：2,641名

アーティストについて：Katja Lee Eliad カティア・リー・エリアド

1972年テルアビブ生まれは、ドローイング、詩、ペインティング、ビデオアートを中心に活動する学際的なクリエイターである。瞑想、自己反省、リサーチから出発した彼女のコンセプチュアルな実践は、抽象化と癒しの複雑なプロセスであり、人種、ジェンダー、セクシュアリティ、国籍など、様々なカテゴリーの違いによって分断された私たちの集合体を形作る文化的神話を扱っている。差異に対する歴史的な扱いを認めながら、カーチャ・リー・エリアドは、嘆き、変容、変化への願望のための空間を作る。

### 展覧会「無流無書道 NO STREAM NO SHODO」について

この些細な文章を書く私の手を、札幌の鳥たちが励ましてくれている。南方からの長旅を終え戻ってきた鳥たちは、恥ずかしげに開花しようとする樹にあわせて歌い、私たちを祝福してくれる。貴重な瞬間にほんともありがたく思う。

感謝の気持ちは日本に対しても感じる。過去2年間でもう3度、3ヶ月ずつ、私は日本に戻ってきている。理由は、日本の和紙に、墨に、筆に、心酔しているからだ。自然から生まれた圧倒的な三要素。書道は自然と一体なのだ。

『無流無書道』は、フランス語と英語という自分の言語、そしてたった26文字のがんばりがらめでさびしいアルファベットを使って、つましくも和紙との対話をめざす実験、ないしは試みである。

私が伝えたいのは感情だ。二十数年間、日本の書を見るたびに強く心動かされてきた。あなたに、すこしでも感動してもらえるだろうか？この大変な課題を、展示にあたり私は自分に課した。私にとって本展は始まりにすぎない。書道は長く険しい。観てくれる人たちに向けて、感情と気持ちのかすかな光を閃かせてあげられるように、私は一生懸命取り組んでいく。このさっぽろ天神山アートスタジオでの時間と作品を支援してくれたカナダアートカウンシルに心から感謝の意を表します。

本展覧会は三部構成の実験である。

1. 和紙という紙はなかなかうまく扱えない。時間をかけて和紙と対話しなくてはならない。和紙の天然繊維がインクの行く先を先導する。この現象を完全に把握し、望みどおりの場所へ墨を行き渡らせるには、適切な墨、顔料の適度な目の細かさ、適量の水、そして時間が必要となる。
2. 二つめの実験的な部分は、使用毛筆を韓国のものに限定した点だ。墨、紙、そして書道は、いちばん最初はコリアンの移民によって日本にもたらされた。この展示は彼らへのオマージュなのだ。私自身、移民である。芸術家として私が目指すのは、芸術作品を生み出すことだけではなく、いまだ苦痛とトラウマが根深い領域どうしを結び、平和と対話の架け橋となることでもある。
3. 三つめにして最後の実験的要素は、英語とフランス語で使われる、たった26文字のさびしいアルファベットを用いる点だ。20年間、私は漢字の意味を理解しないまま日本の書を見てきたが、それでも強烈に長続きする感情を感じてきた。観る人たちへ向けて、感情をつくり出すことができるだろうか？これが私の課題だ。



## マリタ・ラウマティ (マーサ・サマース) アーティストトーク

### 「Exploring Cherry Blossoms as a means to ongoing healing (継続的な治癒の手段としての桜を探る)」

アーティストで医師でもあるマリタ・ラウマティ (マーサ・サマース) さんによるアーティストトーク。

会期：2024年5月11日 (水) 14:00～

会場：さっぽろ天神山アートスタジオ 1階 雑談交流室

入場・参加無料

来場者数：4名

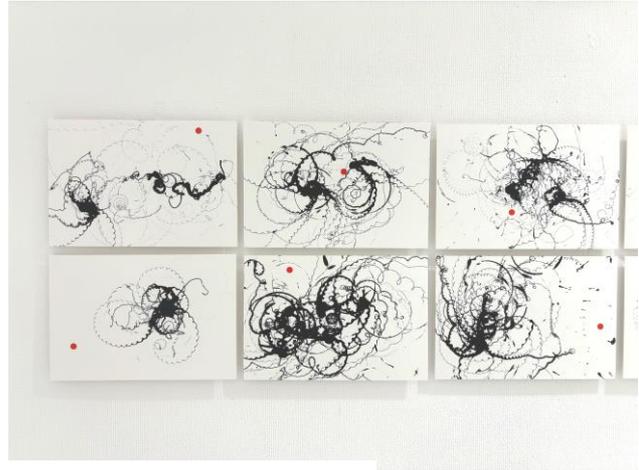
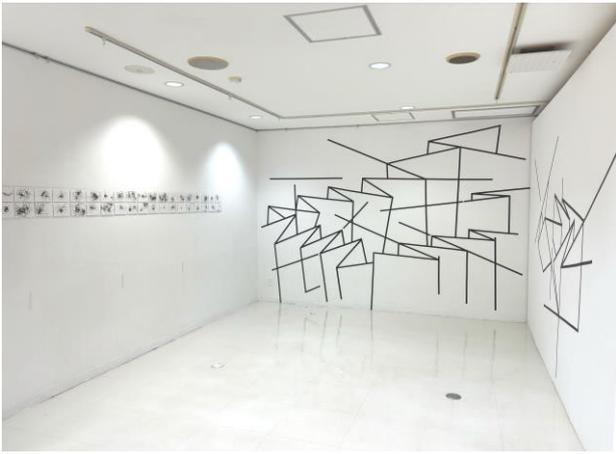
アーティストより「継続的な治癒の手段としての桜を探る」について

その美しさをスケッチや水彩画に取り入れるために札幌にきました。私の方法は、毎日目にした美しさを写真に撮ってスケッチし、夕方と朝に描く絵に反映させるというもの。焦点は桜で、それは私の治癒と老いに関する個人的な考察とよく合っているのです。

自然は私に畏敬の念を抱かせます。私はその美しさを吸収し、スケッチや絵画に取り入れます。

2019年に犬ぞりの大事故に見舞われて以来、私の制作活動は継続的な治癒のために使われてきました。

私は医師であり、個人的に患者を支援するために個人的な経験を活用し、地域でアートを学ぶことが老化を支援する測定可能な方法を研究しているチームの一員でもあります。



## Exhibition\_旅することのない絵葉書 / A postcard without traveling

サンミー・カン / Sun Mee Kang

会期：2024年5月14日（火）-19日（日）9:00-21:00

会場：天神山アートスタジオ 1階 展示スペース

入場・参加無料

来場者数：3556名

アーティストについて：サンミー・カン Sun Mee Kang

サンミー・カンは、ソウル、韓国を拠点に国際的に活動するアーティストです。活動の詳細は、アーティストのウェブサイト、ポートフォリオをご覧ください。

<http://www.linekang.com/>

<https://drive.google.com/file/d/1G4H6-Z84cR8VJXI3VczDuUVhOHYI07rv/view>

展覧会「旅することのない絵葉書 / A postcard without traveling」について

私の作品は、場所と空間から大きなインスピレーションを得ています。私にとって、新しい場所や空間は、新しい物語を創造するための素晴らしいキャンバスとなります。私は「存在」と「無」という概念を探求することに興味があり、「存在」と「無」の関係を観察しています。この2つの概念は、私たちが住む空間の中でさまざまな現象となって現れます。私はこれを観察し、哲学的な思索を引き起こすような作品に発展させています。

さっぽろ天神山アートスタジオでの滞在中に行おうとしたプロジェクトのために、私はインスピレーションを求めて様々な場所を旅しました。最初に訪れた古本屋で、現代の端末（\*スマホやパソコン等の）の黒い表面（モニター）に映し出されている『映像として消費される文字』とは対照的な力を放つ文字に出会った。（古本の）色あせた紙に触れると、時間の痕跡を感じました。

もうひとつの感動的な場所は、札幌の公園でした。公園は私にとって札幌の最大の魅力であり、市民に寛大で静かな憩いの場を提供している。その中でもモエレ沼公園は特に強い印象を残しました。

埋立地だった場所が公園として生まれ変わり、ようやく元の姿に戻ったと感じたのです。時間の流れの中で、人間の欲望によって生命のイメージは変化・進化し続けますが、最終的には本質に戻るという大切なことを、この場所を通して改めて実感しました。創られては消え、存在しては消え、その中で最も本質的なものは何なのかを常に考えながら、それらすべてを認めていく。

今回の展覧会では、ドローイング・インスタレーション作品を通して、このコンセプトを伝えたいと考えています。会期中だけ存在し、会期終了後は完全に解体されるドローイング・インスタレーションは、その内容だけでなく、物質性によっても存在と不在を表現する手段となります。

また、さっぽろ天神山アートスタジオでの滞在中制作で、初めて挑戦するポストカードドローイングやオブジェ作品も展示します。

===

このプロジェクトを始めたきっかけは、北海道大学の近くで偶然見つけた一組の絵葉書でした。1980年代に印刷された53枚の絵葉書は、40年以上も送られることなく箱の中にきちんと保管されていたのです。絵葉書は誰かの手へ渡る運命

をそもそも持っていますが、私が出会ったこれらの絵葉書は、自分の空間に閉じこもったままでした。旅をしていない絵葉書には内容も物語もありません。誰かに見せるためだけの、意味のない凍りついたままのイメージなのです。さっぽろ天神山アートスタジオでの滞在時間は短いものでしたが、毎日ここを訪れる地元の人々の反応を観察しました。人々は満開の桜を楽しんでいました。室内で展覧会を楽しむ人もいれば、時にはピアノを弾いたり、本を読んだり、窓際に座って静かに自然を愛でる人もいました。アートには、誰かに静かに語りかけ、反応を引き出し、思考を促す力があります。今回の滞在制作活動を通して、私も自分の作品を発展させ、その過程で生まれた新しい物語を、この場所を訪れた人たちと共有する貴重な機会を得ることとなりました。

◎ アーティスト・トーク 5月15日(水) 19:00-20:00 @水曜シェアリング  
参加者数：7名



◎ ワークショップ 5月19日(日) 15:00-17:00  
参加者数：10名



本ワークショップではテープで作られた作品を剥がし、葉書に自由な形で貼付け、白いペンでデザインを加えるというものです。

作品が参加者によって剥がされ元の形には存在しないものになりながらも、手紙を出すという形で彼女の作品の成分は世界に分散していく。この過程の中で、彼女は、「存在」と「無」の関係について思考します。

皆さん、様々な方法でテープを張り付けており、十人十色の葉書が出来上がっていきます。

アーティストの作品を自分が解体し、自分の手を加える経験は貴重でありながらもなんだかうしろめたいです。。。しかも、それを手元に置いとくのではなく、手紙として出してしまうなんて！

しかし、この過程に彼女の「存在」と「無」への観念があるのでしょうか。



## Exhibition\_根性 / Konjō\_ アラナ・ウエスレイ / Alana Wesley

会期：2024年5月25日（土）-26日（日）9:00-21:00

会場：天神山アートスタジオ 1階 展示スペース

入場・参加無料

来場者数：1858名

アーティストについて：サンミー・カン Sun Mee Kang

オーストラリア拠点に活動するアーティストです。活動の詳細は、アーティストのウェブサイトをご覧ください。

<https://www.alanawesleyart.com/>

### 展覧会「根性 / Konjō」について

根性 Konjō\*は、現在も発展中（試行錯誤中）の社会参加型プロジェクトです。ビデオと彫刻を含むこのプロジェクトは、日本の野球の文化的特質を探求し、中でも特に、野球を独特なものにしている迷いに焦点を当てています。

日本の野球がビッグであることを証明する必要があります。日本に初めて野球が紹介されたのは、今から152年前の明治維新の時代、ホーレス・ウィルソンによってである。1877年、アメリカを訪れた平岡博が野球道具とガイドブックを日本に持ち込み、日本初の野球クラブを結成したことは有名な話です。

平岡博が全国的に普及活動を行ったのに対し、札幌で最初に普及活動を行ったのはウィリアム・クラーク博士とデービッド・ペンハロ教授で、1877年に北海道大学（当時は農業大学校）のキャンパスで学生を指導し、バットとボールを贈りました。そして1901年、このキャンパスで北海道初の野球部が結成されたのです。

今日、野球は日本で最も人気のあるスポーツです。野球は、札幌だけでなく道外でも新たなサポーターを獲得し、新たな伝統を生み出し続けています。より広い意味で、野球はチームワークを促進し、フィールドで若い才能を開花させ、国民に自己定義の感覚を与えていることは間違いありません。

このプロジェクトは、野球に何らかの形で影響を受けた札幌市民にスポットライトを当てたものです。

スポーツ用品店に勤務する人も、熱狂的な日本ハムファイターズファンも、『根性 / Konjō』プロジェクトの参加者は、日本の野球観戦の裏にある実用的かつ神秘的な儀式に関する質問をアーティストから受けました。インタビューに答えてくれた人たちは、ユニークな応援の仕方、斬新な球場グルメ、試合前後のウォーミングアップ、さらには「大佐の呪い」やイチローが毎日カレーライスを食べる習慣についてまで語り合うことになりました。

日本の野球の神様は実在するのか？

\*Konjō\*日本語で「根性」「粘り強さ」を意味する。



## 開館 10 周年記念イベント

### Art & Breakfast Day in 天神山

さっぽろ天神山アートスタジオでは、滞在アーティストたちと来館するだれもが一緒にお喋りを楽しみながら参加できるプロジェクトとして、2015 年度から毎月開催してきました。コロナのため、このプロジェクトを休止していましたが、このたび、さっぽろ天神山アートスタジオが誕生から 10 周年を迎えるにあたり、Art & Breakfast Day in 天神山が復活。4 年前の Art & Breakfast Day ぶりに再会した方も、当日は展示「根性」を開催中のアラナ・ウェスレイ Alana Wesley さんによるトークも開催しました。

会期：2024 年 5 月 26 日（日）10:30～12:30

会場：さっぽろ天神山アートスタジオ 1 階談話交流室

入場・参加無料、予約不要・朝食持参

来場者数：23 名

#### Art & Breakfast Day in 天神山について

さっぽろ天神山アートスタジオには 1 年を通じて様々な国や地域、ジャンルのアーティストが滞在しています。美術や音楽、演劇、ダンス、写真など…そんなアーティストたちとテーブルを囲み食事とおしゃべりを楽しむ朝食会イベントです。展覧会やオープニングパーティーとは異なるアーティストの日常や国の話、どんな活動をしているのかなどを聞きながら、みんなで一緒に朝ごはんを食べましょう！

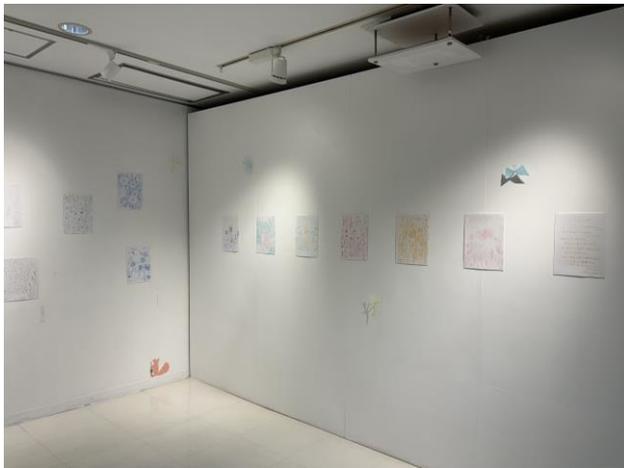
アーティストってどんな人？どんな国から来たの？英語を話してみたいなど、ご興味ある方はどなたでもお気軽にご参加ください。

◎ このイベントはポットラック（料理持ち寄り）イベントです。

◎ 2024 年度は、札幌市地域との交流事業のひとつとして、毎月第 4 日曜日に定期開催を予定しています。

◎ 「Art & Breakfast は三田村 光土里さんの提唱するアートプロジェクトです。さっぽろ天神山アートスタジオはその趣旨に賛同し参加しています。」

三田村 光土里『Art & Breakfast web ページ』<https://www.midorimitamura.com/art-breakfast>



### Exhibition\_Kakuhito (かくひと) \_カミのはらっぱ

会期：2024年6月11日(火) -12日(水) 9:00-21:00、13日(木) 9:00-16:00

会場：天神山アートスタジオ 1階 展示スペース

入場・参加無料

来場者数：710名

アーティストについて：Kakuhito(かくひと)

分野：美術

活動拠点：神奈川県

#### 展覧会「カミのはらっぱ」について

アーティストKakuhitoは、さっぽろ天神山アートスタジオでの滞在制作活動として、天神山緑地はもちろん、札幌市内各地の公園や緑地に出かけ、日々、その屋外環境でスケッチ、ドローイング制作を続けてきました。「草花が好きです」というKakuhitoによる本展は、滞在制作活動の成果として期間中に制作したドローイング作品30点ほどを展示し公開します。



## Exhibition\_アaron・オシア/ Aaron Ossia\_来た、見た、死んだ / Veni, Vidi, Mori – (I came, I saw, I died)

会期：2024年6月15日(土) -18日(火) 9:00-21:00

★ 6/15(土) 14:00～(約1時間半) アーティスト自身によるパフォーマンスを実施します。このパフォーマンスの痕跡や記憶が、インスタレーションとして展示公開されます。

会場：さっぽろ天神山アートスタジオ 1階 展示スペース

入場・参加無料

来場者数：755名

パフォーマンス見学者：27名

アーティストについて：Aaron Ossia アaron・オシア

分野：美術 活動拠点 イギリス、ドイツ、イタリア

展覧会「来た、見た、死んだ / Veni, Vidi, Mori – (I came, I saw, I died)」について

今回札幌で行うパフォーマンスは、これまでの私の3回に渡る日本滞在中に制作した3部作の最終幕であり、2022年に千葉県松戸市でスタートした作品の完結編となります。

来た、見た、歩いた(2022年、松戸)来た/見た、泣いた(2023年、糸島) /来た、見た、死んだ(2024年、札幌)

この一連のパフォーマンスとインスタレーション作品は、アーティスト(私)自身と日本の文化的・自然的景観との根底にあるつながりを探るものであり、感情を記録し、成仏させる方法なのです。肉体的に過酷な労働を強いられ、その場所で拾った素材を使用することは、苦悩の儀式的な再現を象徴していますが、それにもかかわらず、内容のニュアンスや幸福感を内包しています。掘る、発掘する、埋め戻すという骨の折れる作業は、無益な行為のジェスチャーであり、何かを変えるようなものではないけれど、アーティストの行為の痕跡を強く残します。

6月15日(土)に、天神山の外と中でアクションを起こすパフォーマンスから始めます。

このパフォーマンスでは、スタジオの外にある土をスタジオの中に運び、展示スペースの中に設けられた境界の中で、素材や動きを活性化させながら状況を創り上げていきます。

無駄(無意味)、空虚、身体的トラウマ、そして長い間抑圧されてきた感情を呼び起こしたいという願望を、このパフォーマンスで再現しようという試みです。



## Exhibition\_カプセル406 (フレデリック・ラクロイゼル) /CAPSULE406 (Frédéric Lacroix-Loiselle) \_ポープル /Pourpre

会期：2024年6月20日(木) -23日(日) 9:00-21:00

会場：天神山アートスタジオ 1階 展示スペース

入場・参加無料

来場者数：912名

アーティストについて：カプセル406 (フレデリック・ラクロイゼル) /CAPSULE406 (Frédéric Lacroix-Loiselle)

カプセル406 (フレデリック・ラクロイゼル) /CAPSULE406 (Frédéric Lacroix-Loiselle)

分野：美術、音楽、映像(アニメーション) 活動拠点：カナダ

展覧会「ポープル / Pourpre」について \*「ポープル」はPourpre=紫のフランス語発音をカタカナ表記したものです。

「ポープル / Pourpre」では、ドローイングとペインティングを伴ったビデオで構成されたインスタレーションとして展示します。ビデオはいくつかのパートに分かれており、まるで短編小説集のようです。アニメーション・シークエンス、ビデオ映像、それらのハイブリッドで構成されています。ドローイングとペインティングは、アニメーション素材となっています。

アーティスト・イン・レジデンスというコンテキスト(文脈・背景)の影響を最大限に受けながら、様々なテクニックを自由に試してみたかったので、制作に入るまでは事前に何も計画していませんでした。

天神山アートスタジオは、幅広い年齢層の人々が訪れる活気に満ちた公共の場です。子どもたちがたくさん遊んでいることに気がつきました。彼らはその場所特有のシナリオやゲームを想像しているようです。私も同じように、この場所を探検しようと思いました。創作過程では、とある瞬間をビデオに収め、アニメーションを取り入れてユニークなシーンを作り上げようと思いました。



### Art & Breakfast Day in 天神山

さっぽろ天神山アートスタジオでは、滞在アーティストたちと来館するだれもが一緒にお喋りを楽しみながら参加できるプロジェクトとして、2015年度から毎月開催してきました。アーティストと来館されるみなさんとのゆるやかな出会いと語らいの場です。展示開催中のカプセル406(フレデリック・ラクロイゼル)さんがトークを開催しました。

日時：2024年6月23日(日) 10:30~12:30

会場：天神山アートスタジオ1階 談話交流スペース

入場・参加無料

来場者数：27名



## Exhibition&Talk\_シャロン/Sharon 「浪接時空」

会期：2024年6月26日（水）-28日（金）9:00-21:00

会場：天神山アートスタジオ 1階 展示スペース、談話交流スペース

入場・参加無料

来場者数：597名

トーク：6月26日（水）19:00～21:00

参加者：23名

アーティストについて：シャロン・ン・ワイ・クワン（Sharon Ng Wai Kwan）

香港のクントンで生まれ育ち、健康的な生活を送っている。彼女は忘れっぽいが、常に現地の時間は頭に入れている。現在は「地理」、「歴史」、「感情」、「学習」に焦点を当てており、フルタイムのアーティストとして活動している。さらに、香港ジャック・チャオ・マップ」の共同制作者として活躍中。個人の活動には、アートプロジェクト「#NaturalEarlyDeath #自然早死」、コミュニティアートプロジェクト「#DreamWanchai #灣仔大夢」などがある。現在、「見島 @Art\_is\_Land」の共同学習者として、ティーチング・アーティストのトレーニングに参加。

### 展覧会・トーク「浪接時空」について

「時間をコントロールできるか」

時間の概念と時間システムは、異なる地域にいる他者とのコミュニケーションの形に影響を与えています。実際の時間の標準化、視覚化、言語化もまた、人と人、国と国との関係を形作って着ました。

このプロジェクトでは、人々が日本標準時、暦、日照時間をどのように変化させたか、そして特に、時間システムが物理的な距離をどのように突破し、人々をどのように結びつけたり、切り離したりしているかについて焦点を当てた彼女のリサーチを発表します。



## アーティストトーク\_マーコス・ボイター / Marcus Beuter\_ここから… / from here…

アーティスト（マーコス・ボイター）は、現在、天神山アートスタジオで、収集した素材からマルチチャンネルのサウンド・インスタレーションを構成する作業をしています。天神山アートスタジオに到着するまでの9ヶ月間をかけ、自身の活動拠点ドイツから、ユーラシア大陸、中央アジア、東アジアを横断する旅を敢行しました。（日本からの帰路は、韓国からシベリアに渡り、シベリア鉄道を使ってヨーロッパに戻る予定）

この大旅行は、アーティストにとっての長年の夢であり、コロナのロックダウンによって一度は断念した計画を、ふたたび実行にうつしたのだそうです。

トークでは、マーコス・ボイターが旅の途中で遭遇した経験や違いについて、アーティストからいくつかの洞察をお話します。アーティストが取り組んでいる作品の途中経過（サウンドファイル）を聞いていただけます。

日時：2024年6月29日（土）15:00-16:30 終了

会場：天神山アートスタジオ 1階

入場・参加無料

来場者数：20名

アーティストについて：Marcus Beuter/マーコス・ボイター

分野：音楽 活動拠点 ドイツ

プロジェクトについて

『どこに住んでいようと、どこで育とうと、私たちは世界に対して異なる見方を持っている。これは普遍的なことだ。しかし、遠くにいる人々の視点について考えることはほとんどない。

このサウンド・インスタレーションのために… 私はカスピ海から中央アジア、東アジアを横断して日本まで旅をした。さまざまな環境のフィールド・レコーディングを集めるだけでなく、私は人々に言語や国、国の景響についてのインタビューもお願いした。これらのインタビュー音声はそれぞれの母国語で記録されており、これまでに16の言語が集まった。

マーコス・ボイター』